

に姉妹都市を設けたり、学生向けの留学制度をつくることはできないのでしょうか。

もし、制度ができれば、つくばみらい市の方が国際社会で活躍するようになり、つくばみらい市の名が世界で広まると思います。

私のようなお金がなくて留学が困難な人にとって、このような制度があるとすごくうれしいです。国際交流について、市の考えを聞かせてください。

【答弁】日本は今、多文化共生社会の実現が求められており、国際的な感覚を持った人材育成は、大変重要な課題です。

市では国際化社会に対応するため、「つくばみらい市総合計画」で「国際交流活動の推進」および「国際理解教育の推進」の二本の柱を掲げました。

国際交流を考える場合、姉妹都市交流など海外での交流ばかりに目が行きがちですが、市内および近隣市には、多くの外国の方が居住されており、異なった言語や文化を持つ方々との交流が、容易にできる環境にあることから、国際化に対応するための一つの柱「国際交流活動」の第一歩は、市内または近隣市に居住されている外国の方との交流を第一と考え、姉妹都市提携や海外への留学制度の創設は、考えていません。まずは、

市民レベルでの国際交流を進めている市内団体等を調査し、市として何をすべきか、また何ができるのかを検討していきます。

二つ目の柱「国際理解教育」は、既に事業が始まっています。外国の言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力を養うため、外国語指導助手を配置しています。また、本年度からは国際理解教育のすそ野を広げるためにも、小学校でも外国語

通学路の改善について



きしだ もえ 岸田 議員

3年

の授業を取り入れています。国際交流の本質は、外国語が話せ、外国の文化を理解することだけではなく、自分たちが住むこの日本の文化をよく理解し、正しく外国の方に伝えることができることが大切です。違う文化を尊重し、共生することができるところこそ、真に国際感覚を持った人といえます。このことから市では、市としてきうる「国際交流活動」と「国際理解教育」の二本の柱を一体的に実施してまいります。

に考えてほしいと思います。ドライバーと通行者がともに安全であること、それが交通事故を減らす一番大切なことだと思います。私たちが利用する通学路の改善について、市の考えを聞かせてください。

【答弁】市役所伊奈庁舎付近の福田交差点から二三成橋までの県道においても、一部歩道が付いてない部分があるため、通学路としては指定されておらず、迂回した安全な道路を通学道路として指定しているのが現状です。

今後、通学路コースの見直しをはじめ、街灯の増設や切れることのない広めの歩道の設置など、道路の改善について早急

250m間が、まだ歩道のない道路となっています。

しかし、この箇所は、県の道路事業として、伊奈東中学校方面から新しい道路が抜けてくる計画があり、この新しい道路ができると歩道が途切れている箇所の整備が行われる予定です。この路線に限らず、県道の整備に関しては、安全で快適な通学路が早く完成するよう今後とも道路を管理している茨城県に對して、要望していきます。

防犯灯は、市の防犯灯設置基準により20ワットの蛍光灯で、おおむね60m間隔で整備されています。蛍光灯から水銀灯に改めれば今より明るく安全な道路対策

市における防犯対策について



やまだ りな 山田 議員

3年

になります。水田が広がっている場所では、農家の方からは付けたいではないとの要望が逆に提出されることがあります。それは、水田のところに明るい水銀灯を付けることにより、稲作障害が発生し、お米がうまく育たなくなってしまうということがあるようです。

このようなことで、水田が広がる場所へ、今より明るくなる水銀灯への改修は難しい状況です。しかし、できるだけ安全・安心なまちづくりという観点から、防犯灯の設置基準のみにとらわれることなく、通学路等の要因も考え、柔軟に対処していきます。

【質問】市では、私たちのためにいろいろな防犯対策を行っていただいていると思います。

私たち東地区に住む中学生は、毎日自転車で行く田んぼ道を通って通学しています。その田んぼ道は、建物は何もなく、見晴らしはとても良いのですが、街灯が一つもないため、私たちが下校する時間になると、真っ

暗になってしまいます。もちろん、自転車にライトはついていますが、ライトだけではほとんど周りが見えなく、前から誰が来ているのか、後ろにいるのは誰なのか、全く分かりません。

最近では、誘拐や不審者の出没などの事件が多発しています。もし、そんな事件が私たちの通学路で発生してしまったら、逃げることも助けを呼ぶことも難しいと思います。事件を目撃する人も少ないと思います。そして、安心して通学することがで